

日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）

2023年第1回理事会資料

開催日時：2023年1月21日（土）13:30～18:00

会場：ボルファートとやま（富山県富山市奥田新町8-1）会議室2とZoom会議の併用

出席者（50音順，敬称略）：

「JPrOS理事」

[現地参加] 足達俊吾、荒川憲昭、荒木令江、大槻純男、奥田修二郎、川島祐介、河野信、川村猛、紀藤圭治、小迫英尊、小寺義男、小林大樹、近藤格、杉山直幸、田中恒平、堂前直、肥後大輔、増田豪、若林真樹

[オンライン参加] 川上隆雄、高尾敏文、武森信暁

欠席者：岩崎未央、小田吉哉、木下英司

【報告事項】

1. 会員状況（川島）

(1) 会員数（2023年1月16日現在）

種別	会員数
個人会員	個人会員 490名（個人会員：384名 ^{※1} ，個人会員（法人登録）：106名） （昨年：552名、一昨年：545名、本年度新規入会者：22名）
学生会員	352名（185名 ^{※2} ） （昨年：327名、一昨年：298名、本年度新規入会者：32名）
法人会員	13社（昨年 13社、一昨年 13社）
合計	842名＋13社（昨年：856名＋13社）

※1 2020-2022年度会費未払い者 524名を除く（昨年：449名）

※2 メール不達者除外

- ◆ 年会費3年未払いの個人会員数が増加している。
- ◆ 退会届数の増加傾向はない。
- ◆ 学生会員の整理が必要

2. 会計状況

(1) 現貯蓄額（2023年1月16日現在）

口座	残額
事務局口座（ゆうちょ銀行）	¥12,076,881
奇数年度大会口座（ゆうちょ銀行）	¥317,007

偶数年度大会口座（ゆうちょ銀行）	¥163,348
合計	¥12,557,236

昨年から90万円減であるが、今年度の計画通りである。

(2) その他

助成金（JPDM 国際情報発信強化）

科研費助成金口座（三菱 UFJ）	¥2,568,144
------------------	------------

今年度は計画的な執行が可能であることが JPDM 運営委員会で確認された。

3. JPrOS2023 大会（紀藤、大槻、近藤）（別添資料）

(1) プログラム案

- ◆ 大枠が決定され、特別講演は海外から1名の予定である。
- ◆ 国際枠のシンポジウムを AOHUPO との共催とすることも検討中とのこと。
- ◆ 年大会ごとに異なる講演内容になるよう工夫することが、新鮮さを維持するためにも重要との意見があった。これに対し、2023年大会では非会員の講演者が多いのとの回答があった。
- ◆ 懇親会も予定されている。

(2) 大会収支案

- ◆ 学会から大会への準備金50万円は、2023年大会以降は学会への返納は必要ないことが、確認された。

(3) 協賛企業応募状況

- ◆ 49社に募集情報を送付し、6社から返答があった。現在、ランチョンセミナーに2社、企業展示に4社、広告に4社が応募されている。
- ◆ 第一次締切りは、2月1日を予定している。

(4) 参加・演題登録開始の時期

- ◆ 4月初旬を予定している。締切りは遅くとも6月初めを予定している。

5. JPrOS イニシアチブ（奥田）

(1) Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)

- ◆ 論文投稿数は、投稿方法についてのセミナー開催により増加を目指す。
- ◆ 査読及び校正の迅速化を図ることが確認された。

(2) Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

- ◆ 今年度が最終年度となっており、次年度に申請する予定である。

(3) その他：イニシアティブに向けた活動

- ◆ Top-Down Proteomics（武森）：2月3日（金）14時からウェブシンポジウムを開始する予定であり、海外から3名が講演する。
- ◆ 希少難病の診断に向けて：小寺義男氏（北里大学）と小原収氏（かずさ DNA 研究所）により計画中。
 - ◆ 3月中にセミナーを開催予定

- ◆ 学会を媒介とした広報活動を行うとともに、研究予算獲得を進めていきたい。

6. 学会誌発刊(大槻、奥田)

- (1) Proteome Letters:2022 第7巻第2号が発刊され、内容については学会通信で配信済である。
8巻については5月の連休明けに発刊予定。

7. 日本プロテオーム学会賞等(木下)

- (1)2月に推薦依頼のお知らせを配信する予定である。

8. KHUPO との交換講演(小寺)

- (1)2023年について:現在検討中。

- (2)参考:2010年~2022年

2010年 KHUPO 山本 格、木下英司

2010年 JHUPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)

2011年 KHUPO 平野 久

2011年 JHUPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)

2012年 KHUPO 山田 哲司

2012年 JHUPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)

2013年 KHUPO 朝長 毅

2013年 JHUPO KHUPO7名の HUPPO2013によるサポートで対応

2014年 KHUPO 近藤 格(KHUPO 側からの推薦)

2014年 JHUPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)

2015年 KHUPO 荒木令江

2015年 JHUPO Bonghee Lee (Gachon University)

2016年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花

2016年 JHUPO Kwang Pyo Kim

2017年 KHUPO 服部成介, 野村文夫

2017年 JHUPO Cheolju Lee

2018年 KHUPO 石濱泰

2018年 JHUPO Jo-Yoel Cho

2019年 KHUPO 大槻純男、太田信哉

2019年 JHUPO Jinhwan Eugene Lee

2020年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記 (中止)

2020年 JHUPO 中止

2021年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記

2021年 JHUPO Kim Youngsoo

2022年 KHUPO 足立淳

2022年 JHUPO Jin Han (Inje University)

9. 各担当理事からの報告

(1) 学術企画活動(荒木)

- ◆ 2022年分子生物学会ワークショップについて報告がなされた(別添資料)
- ◆ 2023年分子生物学会シンポジウム(応募締切は1月末)に、翻訳後修飾を中心としてテーマを検討中であり、あらためて提案する予定である。

(2) 教育活動(堂前)

- ◆ 2022年の実施状況について報告がなされた。
- ◆ 2023年は、大会前後で企画する予定であり、現在実施内容を検討中とのこと。

(3) 国際活動(小寺、近藤)

- ◆ AOHUPO2023(5/8-5/10)およびHUPO2023(9/17-9/21)への参加が呼びかけられた。
- ◆ HUPO2023で日本と韓国との合同懇親会が提案されており、実現に向けて計画したい。
- ◆ AOHUPO理事に、河野信氏が選出され、石濱泰氏が副会長に選出された。
- ◆ HUPO理事に近藤格氏が選出された。現理事の荒木令江氏は2022年末で任期満了。
- ◆ HUPO2022の参加者は1000人弱であり、日本の参加人数は26名(10位)であったことが紹介された。
- ◆ HUPO ECRメンバーを岩崎未央氏が担当していたが、新たに推薦者を決定し推薦したことが紹介された。

(4) 広報活動(河野)

- ◆ Top-Down プロテオミクスの広報活動を進めることが確認された。

10. その他

(1) 名誉会員の選考

- ◆ 選考手順について、2023年以降候補者の推薦を随時行い、名誉会員付与規程にしたがい3月末までに理事会で決定することが確認された。

(2) 年間スケジュールについて(小寺)

- ◆ 小寺会長より、年間スケジュールを作成し、学会活動の見える化を図ることが重要との意見が出された。

(3) パラフィン組織ブロック(近藤)

- ◆ 廃棄予定の上記試料(病理情報、臨床情報、付き)を多数保管しているため、研究目的で活用してほしい旨、依頼がなされた。

【審議事項】

1. JPrOS2024 大会(小寺、近藤)

大会長の近藤理事から以下の内容が説明され、会場の方針および合同開催について承認された。

(1)会場

- ◆ 国立がん研究センターを会場の第一候補としている。
- ◆ 大会議室(200名以上収容可)と小会議室(約200名を収容可)の2会場で実施する計画である。
- ◆ 昨年10月以降は100名以上の会が禁止されているため、今後の状況により会場変更も検討する。
- ◆ 他の関東圏の会場も、東京および横浜を中心に確保しておく予定である。

(2)日本臨床プロテオジェノミクス学会との合同開催について

- ◆ 以前に合同開催を実施したこともあり、合同開催について提案された。日本臨床プロテオジェノミクス学会では大会長に一任されており、2023年大会長は近藤理事と同一研究室の野口氏である。審議の結果、合同開催について承認された。

「参考資料」年大会開催地／大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	第20回 神奈川／小寺義男
2023	第21回 新潟／松本雅記
2024	第22回 未定

2. Presentation award 選考規程(近藤)(別添資料)

本選考規程について意見交換および審議がなされ、以下の内容が決定された。規程文については、本理事会終了後に庶務担当で原案を作成し、メーリ理事会にて審議承認することとなった。

(1)決定された本選考規程の内容

- ◆ 年総額を 50 万円とする。
- ◆ 授賞額は一人最大 3 万円とする。
- ◆ 該当する国際学会ごとの最大採択人数は、10 名とする。
- ◆ **Research Map** は既に有る場合にのみ、その URL を応募時に提出する。

(2)主な意見交換の内容

- ◆ 採択人数の決め方については、国際学会ごと又は研究グループごとなど、様々な論点がある。
- ◆ 応募者が必ずしも多くはないのも今後の課題である。
- ◆ 国際学会への参加経費(参加費・旅費等)を応募書類に付記する必要はないだろうか。

3. その他

(1)シニア会員制度について、以下の項目について意見交換がなされ、本制度の設置については次回以降の理事会で審議承認されることとなった。

- ◆ 60 歳以上を対象とし、2024 年度から運用する。
- ◆ 自己申告によりシニア会員となることができる。
- ◆ 大会での発表演題の筆頭発表者になれない。
- ◆ 年会費は無料とし、大会参加費を半額とする。